

RIKADAI Neuroscience Seminar Series

Talk 02

新たな機序に基づく統合失調症モデルマウスの確立

演者: 安田 光佑 先生

理化学研究所 脳科学総合研究センター

(現職; 株つくばウエルネスリサーチ)

日時: 2016年7月8日 (金)

17:30 ~

場所: 計算科学研究センター 4階会議室

注意・覚醒を保つ働きは、生命の維持に必須であるだけでなく、高次な認知機能を支えています。この働きが破綻すると、ヒトでは最小意識状態や植物状態といった重篤な症状が生じます。この責任領域の1つとして、脳の深部にある視床髄板内核 (intralaminar thalamic nuclei) という領域が提唱されています。近年、統合失調症患者を対象としたfMRIや死後脳の研究から、この脳領域が精神疾患の発症機序に関わる可能性が指摘されていましたが、明確な因果関係は示されていませんでした。

そこで、これらの機序に基づく新たな統合失調症のモデルマウスを作成し、行動学・生理学的評価を行いました。具体的には、視床髄板内核の興奮性神経伝達が低下したトランスジェニックマウス (ILN-Cre; NR1 flox/flox) を作成し、この変異マウスにおいて、統合失調症に類似した認知機能の障害を見出しています。

私は今年3月に筑波大学発のベンチャー企業に就職しました。就職活動の体験についても少し触れさせていただきます。

(なお、キャリアパスに関するお話はセミナー終了後に行って頂きます。18時45分頃~19時)

< 演者紹介 >

1985年生まれ。山口県下関市出身。2010年に東北大学理学部生物学科を卒業。2012年に理化学研究所の大学院生リサーチ・アソシエイトとして採択される (糸原重美チーム)。2015年に東京大学大学院・農学生命科学研究科・獣医衛生学研究室にて博士号を取得。2016年まで理化学研究所・脳科学総合研究センターの博士研究員として、糸原重美シニアチームリーダーのもとで精神疾患の原因を解明するプロジェクトに取り組みました。

今春から株式会社つくばウエルネスリサーチにて医療・保健分野におけるデータサイエンスをはじめました。少子高齢化が進むなかで、いかに健康寿命を伸ばし、一億総活躍社会を目指すかという問いに取り組んでいます。

